

平成24年度

東海支部報告会

平成24年5月14日（月）15:00～16:00

ル　　ブ　　ラ　　王　　山

次　第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 報告事項
 - 1. 平成23年度事業報告
 - 2. 平成23年度決算報告
 - 3. 会計監査報告
 - 4. 支部運営の見直し
 - 5. 平成24年度役員改選結果報告
 - 6. 平成24年度運営委員
 - 7. 平成24年度事業計画
 - 8. 平成24年度予算
 - 9. その他
- IV. 閉会の辞

(社) 情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTDATA伏見ビル内

TEL: (050) 5556-2856 FAX: (052) 204-4783

E-mail: shibu@ipsj-tokai.jp

1. 平成23年度事業報告

1.1 支部総会

平成23年5月16日(月) ホテルルブラ王山
参加者240名(委任状201名を含む)

1.2 評議員会

第1回 平成23年 5月16日(月) ホテルルブラ王山 参加者34名
第2回 平成23年12月 6日(火) 東桜会館
第3回 平成24年 5月14日(月) ホテルルブラ王山 (平成24年度支部報告会開催日)

1.3 幹事会

第1回 平成23年 4月 4日(水) 東桜会館 参加者14名
第2回 平成23年 6月14日(水) 中電若竹クラブ 参加者10名
第3回 平成23年10月 4日(火) 中電若竹クラブ 参加者 9名
第4回 平成23年11月28日(月) 中電若竹クラブ 参加者 9名
第5回 平成24年 2月22日(水) 名古屋大学 参加者 8名

1.4 電気関係学会東海支部連合大会 主催1回

1.4.1 大会概要

期日：平成23年9月26日(月)、27日(火) 2日間
会場：三重大学
主担当学会：情報処理学会東海支部

主催：電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
照明学会東海支部映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
IEEE名古屋支部
共催：電気設備学会中部支部、三重大学

特別講演 1件、シンポジウム 3件、チュートリアル 1件、一般講演(公募)、
企業展示、懇親会

(情報処理学会関係 特別講演1件 シンポジウム 2件)

特別講演

テーマ：「ITの未来を拓くサービスサイエンス」
講師：諏訪 良武氏(ワクコンサルティング株式会社)

S1. 合同企画シンポジウム(電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会)

テーマ：「社会システムとビジネス-EVを活用したスマートシティの実現」
オーガナイザー：大野 宏司氏(豊田中研)・小林 英雄氏(三重大)・
伊藤 公一氏(トーエネック)
座長：松村年朗(名大)

1. 社会システムとビジネス-EVを活用したスマートシティの実現 川本雅之(トヨタ自動車)
2. 電気事業者のスマートシティに関する取り組み 野田英智(中電)
3. 大学でのスマートキャンパス構想を目指して 坂内正明(三重大)

S2. シンポジウム

テーマ：「新しい社会の仕組みを創造する先端情報技術」
オーガナイザー/座長：伊藤孝行(名工大)

1. 環境社会最適化シミュレーションを可能にする 社会最適化アルゴリズム創出に向けて
伊藤孝行 (名工大)
2. 電気自動車を利用した次世代交通システムに関する一提案
金森亮 (名工大)
3. 安心させるサービスと計算論的集合知
松尾徳朗 (山形大)
4. 再生可能エネルギーを考慮したスマートグリッド上での資源配分動的最適化に向けた
オークション技術
福田直樹 (静大)
5. たんぱく質相同検索と金融市場予測：テキスト・マイニング技術の応用例
松井籐五郎 (中部大)
6. 認知課題時の脳機能計測に基づく認知機能障害のスクリーニング技術
加藤昇平 (名工大)
7. マルチエージェントの進化・発展フレームワーク
打矢隆弘 (名工大)
8. 脳波の工学的応用～Brain Computer Interfaceを通じて～
船瀬新王 (名工大)
9. 聴覚神経機構をデジタルロジックとして実現した
サウンド・ウォッチャー (音の見張り番)
岩田彰 (名工大)

情報処理学会所属受賞者：5名

連合大会奨励賞：伊藤貴之 (大同大)	セッション名「情報コンテンツ」
渡部孝幸 (静大)	セッション名「ソフトウェア」
三村明寛 (名工大)	セッション名「人工知能と知識処理」
村田匡輝 (名大)	セッション名「自然言語」
IEEE学生奨励賞：柴田祐希 (名城大)	セッション名「社会活動支援」

※奨励賞選考数 (奨励賞 + B賞 + IEEE学生奨励賞) 合計：40名
 審査希望申請者数 合計：396名

1.4.2 大会参加

- ・一般講演者 672件 (オーラルセッション590件、ポスターセッション82件)
- ・聴講者 367名
- ・企業展示 5社
- ・広告・援助企業数 46社
- ・特別講演参加者数 172名
- ・懇親会参加者数 55名
- ・大会参加者数 1,123名 (受付数)

1.4.3 情報処理学会東海支部所属委員

■ 大会委員会

委員長：川勝 務 (アイシン・インフォテックス)
 庶務幹事：松原 茂樹 (名古屋大学)
 " : 鈴木 秀智 (三重大学)
 会計幹事：杉浦 宏幸 (中部電力)

■ 実行委員会

委員長：大田 義勝 (三重大学)
 副委員長：坂部 俊樹 (名古屋大学)
 幹事：松原 茂樹・鈴木 秀智・杉浦 宏幸
 委員：入部百合絵 (豊橋技術科学大学)
 " : 大野 宏司 (豊田中央研究)
 " : 伊藤 孝行 (名古屋工業大学)
 事務局：井上 健司 (アイシン精機)
 " : 中谷 正美 (情報処理学会東海支部)
 " : 土井ひとみ (電気関係学会東海支部連合大会)
 " : 丸山久美子 (電気関係学会東海支部連合大会)

■ 現地委員会

委員長：大田 義勝（三重大学）

幹事：鈴木 秀智（三重大学）

■ プログラム編集委員会

委員長：坂部 俊樹（名古屋大学）

幹事：入部百合絵・松原 茂樹

委員：大野宏司・伊藤孝行

大野 誠寛（名古屋大学）

大平 茂輝（名古屋大学）

加藤 昇平（名古屋工業大学）

武藤 敦子（名古屋工業大学）

・大会委員会

第1回 第1回実行委員会合同

第2回 メール審議

第3回 第4回実行委員会合同

・実行委員会

第1回 平成23年 4月4日（月）東桜会館 1階 集会室

議題：開催日程・実施概要他

第2回 平成23年8月26日（金）名古屋大学 情報基盤センター 演習室

議題：大会プログラム

第3回 平成23年9月27日（火）三重大学 工学部大会議室

議題：大会運営

第4回 平成24年1月23日（月）ルブラ王山

議題：事業決算報告・奨励賞贈呈

・プログラム編集委員会

平成23年8月1日（月）名古屋大学 1B電子情報館北棟5階電気系会議室

1.5 講演会 6回（主催6回）

(1) 平成23年5月16日（月）特別講演

演題：「つながる脳」

講師：藤井 直敬 氏（理化学研究所 脳科学総合センター

適応知性研究チーム チームリーダー）

於：ルブラ王山 千成の間

参加者 58名

コメント：藤井氏のグループの研究は、社会脳（Social brain function）とBMI（Brain Machine Interface）に集約される。

社会が脳に影響を与えることは間違いないと考えられるが、そのメカニズムは明らかではない。これまでのアプローチ（神経科学）では、局所的な現象をとらえるまでであり脳全体のネットワークの解明まではいたっていない。ましてや社会的な脳と脳のネットワークとの間には大きなギャップが存在している。その間を解明しようというのが社会脳の研究である。

藤井氏のグループは猿を使った実験で ECoG という手段を取る。従来の脳科学の研究は脳に電極を挿すことで神経細胞の活動を観測してきたが、この方法では1日ぐらしか有効なデータが測定できなかった。一方 ECoG は脳の表面を覆うように多数の電極を貼る方法である。ECoG は被検体への負荷が小さく長期間にわたり安定したデータを測定することができる。神経細胞の直接的に計測するわけではないが、多くのデータを観測し情報処理を行うことで従来と同じくらいの精度のデータがとれ、従来にはない分析を行えることがわかってきた。

現在は、簡単な実験で社会脳を明らかにするための実験手法が確立したという段階であり、今後は、従来の実験を再現することから進めて行く方針である。

理化学研究所では、ECoGを装着しただけではなく、モーションキャプチャーや視線の動きを測定できる猿が3頭居り、様々な実験が可能である。このような環境を構築するためには機材だけではなく外科手術のノウハウなどを習得する必要であることから、脳科学としての実験に入るまでに膨大な時間がかかる。そこで実験環境（予約制）および観測データを一般に公開して、脳科学分野の研究の発展に寄与している。この分野に詳しくなくても独創性のある研究内容であることが良くわかる講演であった。参加者からも活発な質問が尽きることなく多いに盛り上がった講演会となった。

(2) 平成23年7月1日(金)

演題：「ロボットによる新しい情報メディアの創成」

講師：石黒 浩 氏（大阪大学基礎工学研究科 教授 /ATR石黒浩特別研究室室長）

於：豊橋技術科学大学 A2棟 201講義室

参加者227名

共催：豊橋技術科学大学 人間・ロボット共生リサーチセンター 情報メディア基盤センター

コメント：講師の石黒浩先生は人間そっくりの外観を持ったアンドロイドの開発や人間・ロボットコミュニケーションの研究など、日本におけるロボット研究の第一人者である。本講演では石黒先生が開発されてきたロボット研究の紹介とロボット技術による人と人をつなぐ新しい情報メディアについて解説していただいた。

講演の前半ではロボットは人間らしい見かけや動きを持たなくても良いのか？という問いから始まり、ロボットは人間に近づく直前で不気味になるという「不気味の谷」や不気味を感じる際の脳科学解析（fMRI）について解説された。次に、無意識的動作や反射的動作も取り入れるためモーションキャプチャを用いて動きを再現した成人型女性アンドロイドについて紹介され、心の状態に関連する動きまで表現できていないということについて指摘された。一方で、アンドロイドを見て2秒程度では人間ではないということに気づかなかったという実験結果について紹介され、これはアンドロイドが人間でないにもかかわらず無意識では人間と感じており、徐々に人間を見る目の動きとアンドロイドを見る目の動きは同じに変わっていくため、無意識レベルでは人間らしい姿に反応してしまうという非常に興味深い見解について示された。また、遠隔操作機能を持った石黒先生そっくりの人間型ロボット「ジェミノイド」についても紹介され、操作者の石黒先生はロボットの体に適応しながら遠隔の学生と対話することができたことや、ロボットであると気づいていても自然に会話できていたことから、「ジェミノイド」は人間の存在を代替するものとなり、新しいメディアになることが期待できる。最後に、人間のミニマルデザインである「テレノイド」について紹介され、「テレノイド」というニュートラルな姿にその声の主の姿が見え自分の想像で話することができるようになったという興味深い実験結果や、「テレノイド」を手のひらサイズに小さくした人型携帯「エルフォイド」についても紹介された。「エルフォイド」は従来の電話とは異なり、声だけではなく姿形も伝えることで、相手の声から相手の顔のイメージを思い描きやすく、互いの存在感を伝え合う人として存在できる新しいメディアである。これらの研究を通して、センサによる動き、見かけ、対話により人の存在を感じ、姿形は重要ではないのは？必ずしも本人そっくりではなくても良いのでは？むしろそうでは無いほうが対話メディアとしてよいのでは？という問いかけがなされた。

講演では、豊橋技科大の教員や学生以外にも多数の企業関係者や学外の大学関係者が参加し、非常に関心度の高い講演であったことが伺えた。また、石黒先生はユーモアを交えながら様々なエピソードを紹介されたので、最初から最後まで笑いの絶えない講演会であった。講演終了後の質疑応答時間では多くの質問や議論があり、非常に有意義な講演となった。

(3) 平成23年10月31日(月)

テーマ：『グリーンコンピューティングの現状：天津と北九州での取り組み』

講演1

演題：「中国天津におけるスマートシティ計画他について」

講師：山村 真司 氏（㈱日建設計総合研究所 理事 上席研究員）

講演2

演題：「スマートグリッド実証実験と世界のスマートシティビジネス戦略」

講師：岡村 久和 氏（日本アイ・ピー・エム(株)公共事業 スマーターシティ推進部長）

於：名古屋工業大学 M3（0321）

参加者 30名

共催：内閣府最先端次世代研究開発プロジェクト

「環境社会最適化シミュレーションを可能にする社会最適化アルゴリズム創出とその応用」

名古屋工業大学情報工学フロンティア研究会

「マルチエージェントに基づく社会最適化システム研究会」

名古屋工業大学グリーンコンピューティング研究所

コメント：「グリーンコンピューティングの現状：天津と北九州での取り組み」と題して平成23年度情報処理学会東海支部第3回講演会が開催された。講演者は山村真司氏（㈱日建設計総合研究所 理事 上席研究員）、岡村久和氏（日本アイ・ピー・エム(株) 公共事業 スマーターシティ推進部長）であり、参加者数は30名程度であった。

山村氏からは「中国天津におけるスマートシティ計画」と題して、中国など新興国におけるスマートシティ構築の考え方として、マイクログリッドとスマートグリッドから都市構造と都市生活の視点からみた包括的な検討が必要であること、スマートシティ化に向けた中国の実態として平均気温の上昇やエネルギー問題が大きな背景があることを解説頂いた。最後に天津千家保金融区における取り組みとして、環境負荷削減とクオリティ向上を併せて実現化するコンセプトや評価指標について、建物、都市計画、交通計画など複数の側面からご紹介して頂いた。

岡村氏からは「スマートグリッド実証実験と世界のスマートシティビジネス戦略」と題して、2010年経済産業省によって始められた“スマートコミュニティ事業”，具体的には日本で最初のスマートグリッドの国内での公式取り組みと考えられる横浜市、豊田市、けいはんな、北九州市の4地区実証のコンセプトについて簡単にご紹介頂いた。特に電力の動的価格設定を試みる北九州市での取り組みについて、その狙いや現在の検討事項や問題点について解説された。さらに、世界の兆候としてスマートグリッドだけでなく市民の幸せのために交通や公共安全など豊かな街づくりを目指すスマートシティプロジェクトに突き進んでいること、この時代感で世界中150都市を手がけるIBMの基本的な考えはどこにあるのかスマートグリッドからシティへの展開について解説して頂いた。各講演者の講演内容に対して、フロアの皆様より様々な観点から質問もなされ、活発な議論を行うことができた。

(4) 平成23年11月16日（水）

演題：「組織とICT」

講師：原田 裕明 氏（独立行政法人情報通信研究機構 産学連携部門 参事）

於：三重大学工学部15番教室

参加者 41名

コメント：講師の原田裕明氏は、近年、ご講演内容に関連する社会科学をベースにしたナレッジマネジメントの研究に携わっておられ、本講演でも、ナレッジマネジメントと社会科学の知見を元にして、組織の中で有用な「コンピュータと通信技術（ICT）」とは何かについて話していただいた。

講演では、まず、ICTがこれまで組織活動を支援する道具として活用されてきて、その運営に量的質的变化をもたらす可能性があること、および、ICTの組織への影響を正しく理解しないと、ICTが使われない、予期しない悪影響を与えるという可能性があることを示され、組織とICTとの関わりを正確に理解するためには、社会科学（社会心理学等）の知見や手法を活用すべきであると述べられた。その講演内容は以下の通りである。

ICTを活用するための要件として、入力情報に組織の知識が十分に表出されているか、出力情報を活用してもらえ素地はあるか、があり、組織や環境がこの要件を満たしていないと活用は難しい。知識の共有の場合、その知識（ナレッジ）の移転において、提

供側の費用・利得・障壁，受取側の費用・利得・障壁のバランスで適用の可否を推定できるということを，米国陸軍のAARなどを例にして示した。

組織などの集団における生産性，意思決定性，葛藤について問題点などを示し，ICTを利用することでどのような変化が起きるかを事例とともに示した。ブレインストーミングなどでの生産性は，集団が大きくなると良くなるとは限らないことが知られており，その原因は生産妨害，評価懸念，ただ乗りなどによる。集団の意思決定では，集団内の心理的力学（集団極化，集団思考等）が働き，必ずしも最適な案が合理的に採択されない。集団間には，利害対立，思い込みによる外集団への敵視，内集団びいき，自己正当化によって葛藤が生じる。ICTを利用して電子ブレインストーミングなどの環境を提供すると，集団生産性では生産妨害の軽減，評価懸念の低下により生産性が上がる。集団意思決定においては覆面化によって抑制が利かなくなり集団極化が促進されやすくなる。集団間葛藤においては，実世界で接触のある者同士による内集団の結成，外集団との葛藤が現れる。

集団の動きを分析したり予測したりする技術として，フィールドワーク，社会ネットワーク分析(SNA)，組織のシミュレーションモデル構築などが紹介され，サービス業務における知識移転のモデル化と最適な組織戦略の推定に関する事例を示した。

全体のまとめとして，ICTを組織活動に活用するには，技術のみではなく，人，組織，文化などを正しく把握しないと成功しないので，技術と人・社会の両面をよく知った上で分析・推定すべきであり，そのための手法が開発されていると述べられた。ICT技術の適用に関して社会科学的な立場からアプローチする講演内容は，工学系の授業などではあまり接することがないので，参加した学生らにとっては非常に有益な知見を得られたようである。講演終了後，講演内容に関する質問が多く出され，非常に意義深い講演となった。

(5) 平成23年12月6日(火)

演題：「スマートな次世代都市についての取組」

講師：森田 清紀 氏（株式会社 日立製作所 スマートシティ事業統括本部
グローバル事業統括推進センタ 統括センタ長）

於：東桜会館 1階 集会室 参加者 28名

コメント：スマートシティの考え方から、分析・最適化・シミュレーションという情報技術の関わり、国内外の関連プロジェクト動向と今後の展望までの説明があり、次世代都市に関する最新動向を一通り把握できる内容となっていた。

スマートシティは環境やエネルギー問題の解決の一つとして発展が期待されており、それを支える情報処理の分野でも注目すべきキーワードとなっている。聴講者からも、取り組みにおける現状の課題などに関し、いくつか質問が挙がっていた。

(6) 平成24年1月10日(火)

演題：「広がる機械学習の応用」

講師：鹿島 久嗣氏（東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授）

於：名古屋大学 IB電子情報館 中棟 015講義室 参加者 120名

協賛：名古屋大学大学院情報科学研究科

コメント：データ解析の一分野としての観点から機械学習に関して初歩から最新の話題までを簡明にまとめられた講演であった。講演は、機械学習の導入、ネットワークの機械学習、クラウドソーシングの機械学習の3部構成でまとめられた。機械学習の導入では、機械学習の分野を大きく教師つき学習と教師無し学習とに分類し、それぞれについて代表的な手法、SVMやK-means等に解説が加えられ得た。また、応用先としては信用リスク評価、テキスト分類、信号・画像認識などの紹介があった。次に、ネットワークの機械学習では関係データの学習として捉え行列の補完問題、協調フィルタリング、行列の低ランク化が取り上げられた。特に先生のご研究から行列やテンソルの低ランク化の解説とソーシャルネットワーク分析、Webリンク解析、タグ推薦タスクへの応用が取り上げられ

た。最後に、クラウドソーシングの機械学習では、アマゾンのメカニカルタークの紹介から、クラウドソーシングにおける問題点として、データ品質のばらつき問題、ワーカーの品質管理が解説された。さらに機械学習の観点から、ラベル付け問題として位置づけ、研究の展開がラベル推定問題からワーカーの能力や対象問題などのモデル推定へ進展していることが紹介された。

会場もほぼ満員となり講演内容からも90分の講演時間では短かったと思われる。さらに、講演後の質疑や講演会終了後の質疑も活発に行われ、講師や研究分野への関心の高さが伺われた。

1.6 研究会他 10回（協賛9回、共催1回）

- (1) 平成23年9月9日（金）
第8回中部シンポジウム「身近にあるスケジューリング問題」
（協賛、主 催：日本オペレーションズ・リサーチ学会 中部支部）
- (2) 平成23年11月11日（金）
「JaSST' 11 Tokai」 「やろまいか！東海」
地域での新しい取組みや現場の改善事例の共有
（協賛、主 催：特定非営利活動法人 ソフトウェアテスト技術振興協会（ASTER）
JaSST' 11 Tokai 実行委員会）
- (3) 平成23年11月15日（火）
第3回PM学会中部支部シンポジウム
（協賛、主 催：プロジェクトマネジメント学会中部支部）
- (4) 平成23年11月15日（火）、16日（水）
「フロンティア21エレクトロニクスショー2011」
（協賛、主 催：中部エレクトロニクス振興会）
- (5) 平成23年11月25日（金）、26日（土）
第9回情報学ワークショップ WinF2011
（協賛、主 催：豊橋技術科学大学（情報・知能工学系））
- (6) 平成23年11月29日（火）
第9回QoSワークショップ
「生活の質を向上させる新たな通信サービスとコミュニケーション品質」
（協賛、主 催：（社）電子情報通信学会 通信ソサイエティ
コミュニケーションクオリティ研究専門委員会）
- (7) 平成23年12月2日（金）
電子情報通信学会東海支部 平成23年度第3回一般講演会
（協賛、主 催：社団法人電子情報通信学会東海支部東海受信環境クリーン協議会技術部会）
- (8) 平成23年12月17日（土）
第一回 ITトレンド・フォーラム
「インターネット崩壊の危機迫るか!!! IPv6と今後のネット社会への対応を考える」
（協賛、主催一般社団法人持続可能なモノづくり・人づくり支援協会（略称ESD21））
- (9) 平成24年2月1日（水）
豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 特別講演会
「ITサービス産業の展望」
（共催、主催：豊橋技術科学大学 知能・情報工学系）

(10) 平成24年3月1日(木)

講習会『実用・拡大期に入ったクラウドコンピューティングと仮想化技術』
(協賛、主催：電子情報通信学会本部、同東海支部)

1.7 平成23年度学生研究発表会助成

学生研究発表会助成は、複数の大学からの学生が研究発表を通して互い研鑽を積む場を提供することを目的とする研究発表会に参加する学生を支援するためのものです

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員

助成対象発表会：平成23年3月1日～平成24年2月29日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：平成23年2月1日～平成24年2月29日

・助成：1件

第9回情報学ワークショップ WinF2011

実施日：平成23年11月25日(金)～26日(土)

1.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員(卒業後1年未満の会員も含む)で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成績をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する

募集期間：平成24年1月15日(日)～3月15日(木)

選定委員会：平成24年4月19日(木) 若竹クラブ

表彰式：平成24年5月14日(月) 於：ルブラ王山

授賞者：8名 氏名(所属) 論文タイトル

小澤 俊介(名大)

『外出行動前のユーザへの情報提供を目的としたWebからのアドバイス文抽出』

柴田 誠也(名大)

『A Fast Performance Estimation Framework for
System-Level Design Space Exploration』

田中 剛(静大)

『携帯端末のWebブラウザを用いた異種ネットワークデバイス連携システムの開発』

陳 暘(名大)

『CANメッセージのオフセット決定手法』

伴 拓也(名工大)

『ActionScriptによる η Tペアリング演算ライブラリ』

廣瀬 勇也(名工大)

『身体動作認識に基づいた直感的ヒューマンロボットインターフェース』

松本 真樹(三重大)

『静的情報を用いた動的再スケジューリングのオーバヘッド削減手法』

山田 晃久(名大)

『A Sound Type System for Typing Runtime Errors』

(五十音順)

2. 平成23年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入科目	平成23年度	
	予算額	決算額
交付金	2,910,000	2,910,000
(本部交付金)	2,390,000	2,390,000
(賛助金還元分)	520,000	520,000
利息	100	33
前年度繰越金	63,470	63,470
その他(立替金)	1,000,000	1,000,000
周年行事費	0	0
計	3,973,570	3,973,503

2.2 支出の部

支出科目	平成23年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,750,000	1,245,432
年次報告会費	490,000	461,384
講演会・研究会費	280,000	299,415
支部連合大会費	300,000	142,515
支部表彰費	200,000	129,880
支部助成金費	100,000	50,000
30周年記念行事	0	0
会議費	380,000	162,238
2. 事務費	1,950,000	1,933,583
通信費	50,000	47,880
消耗品費	20,000	5,958
郵便運搬費	10,000	14,525
雑費	5,000	420
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	273,570	
4. 次年度繰越金		794,488
計	3,973,570	3,973,503

3. 会計監査報告

平成23年度収支決算書・平成23年度監査報告書……………添付資料 (P16)

4. 支部運営の見直し

情報処理学会は支部運営の見直しに関する関連学会の動向を踏まえ、「情報処理学会一般規則の支部該当箇所」を変更した。変更に伴い各支部では新たに支部運営規約を制定することとした。

見直しの経緯

- 2012/1/25 「情報処理学会一般規則の改訂」1月理事会承認
- 2012/1/27 関連5学会協議会での他学会状況の確認
- 2012/3/21 「東海支部運営規約」理事会承認

4.1 東海支部運営規約について

東海支部運営規約 ……………添付資料 (P17-18)

発効日：2012/3/21 施行日：2012/4/1

情報処理学会の対応により東海支部では名称変更をすることとした。

- ・「支部総会」→変更：「支部報告会」
- ・「支部役員」「支部評議員」→変更：「委員」
- ・「評議員会」→変更：「運営委員会」

4.2 東海支部表彰規程について……………添付資料 (P19-20)

新たな支部運営規約の発効に伴い、関係呼称を一括して読替える

掲載 省略

6. 平成24年度運営委員

(*新任、**再任、無印2年目)

役職	印	氏名	所属
支部長	*	坂部 俊樹	(名古屋大学)
副支部長	*	岩瀬勇二郎	(トヨタデジタルクルーズ)
幹事		伊藤 孝行	(名古屋工業大学)
		大野 宏司	(豊田中央研究所)
		杉浦 宏幸	(中部電力)
	*	柘植 覚	(大同大学)
	*	西田 直樹	(名古屋大学)
	*	松本 忠博	(岐阜大学)
委員		旭 健作	(名城大学)
		石田 好輝	(豊橋技術科学大学)
		伊藤 憲生	(OKI ソフトウェア)
	*	岡本 隆一	(日立オムロンターミナルソリューションズ)
		奥居 哲	(中部大学)
		奥野 清一	(デンソー)
		何 立風	(愛知県立大学)
	*	片山 喜章	(名古屋工業大学)
	*	金子美博	(岐阜大学)
		桐山 伸也	(静岡大学)
	*	城野 剛伸	(中部電力)
		鶴岡 信治	(三重大学)
	*	中村 文明	(トヨタ自動車)
		橋本 昌巳	(信州大学)
	*	橋本 学	(中京大学)
		蜂巢 吉成	(南山大学)
	**	菱田 隆彰	(愛知工業大学)
	間瀬 健二	(名古屋大学)	
	松浦 勇	(あいち産業科学技術総合センター)	
**	水野 徳重	(メイテツコム)	
	三代沢 正	(諏訪東京理科大学)	
	吉澤 明芳	(萩原電気)	

(五十音順)

7. 平成24年度事業計画

7.1 支部報告会 平成24年5月14日(月) ルブラ王山

7.2 運営委員会 3回

第1回 平成24年5月14日(月) ルブラ王山

第2回 平成24年12月上旬(予定)

第3回 平成25年5月(予定) (平成25年度支部報告会・30周年記念行事開催予定)

7.3 幹事会 5回

第1回 平成24年4月4日(水) 若竹クラブ

第2回 平成24年6月18日(月) (予定)

第3回 平成24年10月上旬(予定)

第4回 平成24年11月下旬(予定)

第5回 平成25年2月中旬(予定)

7.4 支部大会(電気関係学会東海支部連合大会として)

期 日:平成24年9月24日(月)、25日(火)2日間

会 場:豊橋技術科学大学

主担当学会:電子情報通信学会東海支部

概 要:・特別講演(1件)

・シンポジウム・チュートリアル(4件)

・一般講演(公募)

・懇親会

・広告募集・企業展示募集

・奨励賞

主 催:電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
IEEE名古屋支部

共 催:電気設備学会中部支部

情報処理学会東海支部企画シンポジウム

テーマ:ここまでする言語処理技術

—「言語/音声」情報処理の最先端—

オーガナイザー:松原茂樹(名大)

7.5 講演会 主催7回

(1)平成24年5月14日(月)特別講演

演題:「日本再生に求められること」

講師:ビル・トッテン氏 株式会社アシスト 代表取締役会長

於:ルブラ王山

(2)平成24年6月14日(木)予定

演題:未定

講師:Kwei Jay Lin (Professor, University of California, Irvine)

※上記を含め7回開催予定

7.6 研究会 随時

7.7 学生研究発表会助成

学生研究発表会助成は、複数の大学からの学生が研究発表を通して互い研鑽を積む場を提供することを目的とする研究発表会に参加する学生を支援するためのものです

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員

助成対象発表会：平成24年3月1日～平成25年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：平成24年2月1日～平成25年2月28日

7.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員も含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成績をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する

申請期間：平成25年1月中旬～3月中旬

選定委員会：平成25年4月中旬

表彰式：平成25年5月（支部報告会）

7.9 東海支部設立30周年記念行事について

開催日：平成25年5月中旬（支部報告会同日開催予定）

会場・概要：未定

※東海支部設立：1982年5月6日

7.10 支部運営委員の役割分担について

支部長：坂部支部長（支部を代表し、支部を統括する）

副支部長：岩瀬副支部長（支部長を補佐し、支部長が欠けたとき又は事故があるときはその職務を代行するものとする）

幹事：支部長を助けて支部の事業を遂行する

委員：支部長と協力して支部の事業の遂行を援助する

■業務別担当

・総括担当幹事：伊藤幹事（幹事の取りまとめ、会議資料案チェック）

・庶務担当幹事：大野幹事（総務、議事録作成）

・会計担当幹事：杉浦幹事（会計管理、事務局監督員）

・学生担当幹事：柘植幹事（学生会員増強）

・広報担当幹事：松本幹事（支部HP管理、支部会員への広報）

・連合大会担当幹事：西田幹事（実行委員）

・記念行事担当幹事：伊藤幹事、西田幹事（30周年行事の企画）杉浦幹事（会計）

8. 平成24年度予算

8.1 収入の部

(単位：円)

収入科目	平成23年度		平成24年度
	予算額	決算額	予算額
交付金	2,910,000	2,910,000	3,280,000
(本部交付金)	2,390,000	2,390,000	2,780,000
(賛助金還元分)	520,000	520,000	500,000
利息	100	33	100
前年度繰越金	63,470	63,470	794,488
その他(立替金)	1,000,000	1,000,000	0
周年行事費	0	0	0
計	3,973,570	3,973,503	4,074,588

8.2 支出の部

支出科目	平成23年度		平成24年度
	予算額	決算額	予算額
1. 事業費	1,750,000	1,245,432	1,750,000
年次報告会費	490,000	461,384	450,000
講演会・研究会費	280,000	299,415	350,000
支部連合大会費	300,000	142,515	350,000
支部表彰費	200,000	129,880	150,000
支部助成金費	100,000	50,000	100,000
30周年記念行事費	0	0	100,000
会議費	380,000	162,238	250,000
2. 事務費	1,950,000	1,933,583	1,950,000
通信費	50,000	47,880	50,000
消耗品費	20,000	5,958	20,000
郵便運搬費	10,000	14,525	10,000
雑費	5,000	420	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,865,000
3. 予備費	273,570		374,588
4. 次年度繰越金		794,488	
計	3,973,570	3,973,503	4,074,588

9. その他

情報処理学会東海支部

平成23年度収支決算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

(単位：円)

収入科目	決算額	支出科目	決算額
本部交付金	2,910,000	1. 事業費	1,245,432
支部交付金	2,390,000	年次総会費	461,384
賛助金還元	520,000	講演会・研究会費	299,415
前年度繰越金	63,470	支部連合大会費	142,515
その他(立替金)	1,000,000	支部表彰費	129,880
利息	33	助成金費	50,000
		会議費	162,238
		記念行事	0
		2. 事務費	1,933,583
		通信費	47,880
		消耗品費	5,958
		郵便運搬費	14,525
		雑費	420
		事務委託費	1,864,800
		3. その他立替金	0
		4. 次年度繰越金	794,488
合計	3,973,503	合計	3,973,503

平成23年度監査報告書

平成24年4月23日

一般社団法人情報処理学会東海支部
支部長 川勝 務 殿

平成24年度 情報処理学会東海支部

監事 末永康仁 (印)

平成23年度収支決算書について監査の結果、その適正なことを認めます。

以上

平成 24 年 3 月 21 日発効
平成 24 年 4 月 1 日施行

東 海 支 部 運 営 規 約

(設置)

第 1 条 情報処理学会定款第 52 条により、東海地域（愛知県、岐阜県、三重県、長野県、静岡県）に東海支部（以下「支部」という）を置く。

(目的・事業)

第 2 条 支部は、東海地域に在住または勤務する会員（以下「支部会員」という）の相互協力により、本会の目的達成のため、定款第 4 条に掲げる範囲において必要な事業を行う。

(支部の運営組織・構成)

第 3 条 支部に、次の東海支部運営委員（以下「支部運営委員」という）を置く。

- (1) 支部長：1 名
- (2) 副支部長：1 名
- (3) 支部幹事：6 名以内
- (4) 支部委員：30 名以内

2. 支部長、副支部長および支部幹事は、支部会員の内から互選し、理事会の承認を得るものとする。支部長および副支部長の任期は 1 年、支部幹事の任期は 2 年とする。支部長、副支部長および支部幹事の再任は認めない。
3. 支部委員は、主として支部会員の内から理事会の承認を得て支部長が委嘱する。支部委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
4. 支部長は、必要の都度、支部運営委員で構成される東海支部運営委員会（以下「支部運営委員会」という）を開催し、支部の円滑な運営業務を統括する。
5. 副支部長、支部幹事および支部委員は、支部長を補佐し、支部の業務を遂行する。

(支部の運営)

第 4 条 支部の運営は、理事会で承認された年度計画および予算により行う。

2. 支部運営委員会は、毎年指定された時期までに翌年度の事業計画案、予算案および事業報告を作成し、理事会に提出するものとする。
3. 支部運営委員会は、支部会員に対して支部の活動状況（諸事業の報告・計画、収支の状況、支部運営委員の構成等）を報告するものとする。

(附 則)

第5条 本規約は、理事会決議の日から発効し、2012年4月1日から施行する。

第6条 本規約の改廃は理事会の決議により行う。

第7条 本規約の施行により、従来の「東海支部規約」は廃止する。

第8条 本規約に定めるものの他、支部の運営に関する必要な事項は別に定める。

以上

平成 11. 1. 20 作成
平成 11. 4. 27 改訂
平成 13. 5. 8 改訂
平成 14. 5. 10 改訂
平成 21. 5. 11 改訂
平成 23. 5. 16 改定
平成 24. 3. 21 改訂
(東海支部運営規約発効日)

情報処理学会東海支部表彰規程

第1章 総則

第1条 支部規約第3条（5）項にもとづく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。

第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。

1. 学生論文奨励賞
2. その他、支部で特に認めた賞

第3条 前条の各表彰の候補者または候補の調査選定には、賞ごとに選定委員会を設ける。各選定委員会には委員長をおく。選定委員長は原則として支部長が当る。また、選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部運営委員会承認を受けるものとする。

第4条 各表彰の受賞者は、前条の選定委員会委員長の報告に基づいて、情報処理学会東海支部幹事会の議決で決定する。

第5条 各表彰の受賞者への賞状などの贈呈は、支部報告会などとあわせて適当な機会にできるだけすみやかに行う。

コメント [1]: 評議員会⇒運営委員会

コメント [2]: 総会⇒支部報告会

第2章 学生論文奨励賞

第6条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を嘱望される者に贈呈する。

第7条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に1回とし、その受賞者数は原則として8名以内とする。

第8条 学生論文奨励賞を受ける者は、情報処理学会の論文誌、情報処理学会が主催または共催する国際会

議・全国大会・研究会・シンポジウム（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を第一著者として発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。

- イ. 論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。
また、学会講演発表の場合は、講演日時が当該年度内であること。
 - ロ. 学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。
 - ハ. 学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、
または会員として入会を申請中であること。
- 二. 過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。
- ホ. 申請時において満30歳以下であること。

第9条 学生論文奨励賞の申請に際しては次の各項に掲げるものを選定委員会に提出する。

- イ. 学生論文奨励賞申請書
- ロ. 論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、
および採録通知
- ハ. 発表内容梗概

第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は図書カード1万円分とする。

第3章 雑則

第11条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。

第12条 本規程の改廃は、支部運営委員会の議決により行う。

コメント [13]: 総会⇒運営委員会